

# 日本フンボルト協会 2020年度第1回常務理事会・理事会合同会議 議事録

日時：6月6日（土）14時から17時（Zoom会議）

出席 28名

常務理事：伊藤理事長、浅田副理事長、西川副理事長（関西支部長）、伏木先生、広渡先生

井田先生（関東甲信越支部長）、居城先生（北海道支部長）、梶先生、

河野先生（九州支部長）、岡林先生、坂越先生（中四国支部長）、須田先生（東北支部長）

高橋宗五先生、高橋義人先生、高橋輝暁先生、高山先生、種村先生、鏝田先生

和田先生（中部支部長） 19名

理事：金先生（関西）、香田先生（関東）、大下先生（中四国）、小澤先生（関西）、武内先生（九州）

床谷先生（関西）、渡辺先生（関東）、山上先生（関西） 8名

事務局：関映子

《議題》

## 1. 理事長挨拶（伊藤理事長）

\*挨拶の冒頭、事務局の関さんが、30年にわたるDAAD友の会および日本フンボルト協会での日独交流事業に尽力した功績に対し、ドイツ連邦政府から連邦功労十字章の授与が内定したことが披露され、会議参加者一同から祝意が示された。今後何らかの形でお祝いの会を設ける予定。

\*本日は本来総会当日であるが、コロナ感染の影響で、Zoom会議という形を取らざるを得なかったことが説明され、このような状況であるからこそ、日本フンボルト協会として、様々な形で情報発信を行っていく予定であることが披露された。

## 2. 2019年度の活動報告 資料 1

\*伊藤理事長から以下の活動報告について説明され、承認された。

### (1) 2019年度年次総会について

・2019年6月2日（日）にドイツ文化会館（港区赤坂）で開催された。

・役員改選が行われ、新理事などの役員が承認された。

・第1回日独共同研究奨学金助成対象研究2件の報告。

・事務協議のあと、講演会（演者：Herr Prof. Dr. Franz Waldenberger（ドイツ日本研究所所長）  
演題：「コーポレート・ガバナンスの日独比較」（日本語））が実施された。

・講演会終了後、ミニコンサート（奏者 クリネット：磯部周平、ヴァイオリン：蓬田清重、設楽久美子  
ヴァイオラ：針谷美智子、チェロ：清水唯史）が開催された。

・新理事会開催と新理事長選任。

・懇親会の開催

### (2) 協会運営のための諸会議について

・6月2日（日）、総会開催前の12時から13時まで常務理事会および理事会を富山県赤坂会館で開催した。

・2019年8月31日（土）（京都府立医科大学）および12月21日（土）（名古屋工業大学）に、常務理事会を実施した。4月4日に開催予定であった常務理事会はコロナの影響でZoom会議として実施した。

### (3) ドイツ研究留学説明会の開催

・2019年6月2日の総会終了後、ドイツ文化会館にて開催（DAAD 東京所長 Dr. Mahnke 氏も参加）し、全体説明会、分野別説明会に、併せて100名の参加者があり盛況であった。

### (4) 2020年度総会について

・2020年6月6日（日）、京都府立医科大学にて開催予定だったが、コロナ・ウィルス感染の影響で開催を中止。6月6日に、Zoom会議での常務理事会・理事会を踏まえ、その結果を協会HP上に掲載し、会員から意見聴取を行うことになった。

### (5) 支部活動について

・各支部長から各支部の活動状況が報告され、了承された。

### (6) 日独共同研究奨学金の件

・県副理事長（日独共同研究奨学金基金管理者）より2019年5月末時点の募金状況の報告がなされ了承された。

・2019年度の日独共同研究奨学金への応募11件（理系7件、文系4件）について、選考委員会で審査し、2件の助成候補研究（理系、文系それぞれ1件）が常務理事会に提案され、承認された。

・2020年度も第2回目として、日独共同研究奨学金の募集を実施することが決定された。

(7) 協会の財政について

・協会財政の逼迫に備えて、日独共同研究奨学金と財政安定化基金の取り扱いおよび、配分比率(5:1)が決定された。

(8) 「日本フンボルト協会ニューズレター」(Nr. 7 2019年9月)を刊行した。

### 3. 2020年度の活動方針 **資料 2**

・伊藤理事長から以下の活動方針が説明され、審議の結果、承認された。

(1) 2021年度年次総会について

通常通り開催する予定ではあるが、来年度の総会の開催も見通せない状況である。今後の社会状況を踏まえ、開催時期、開催場所等については常務理事会で検討する。

(2) 留学説明会について

フンボルト奨学金についても DAAD 奨学金と同様に、ドイツ留学についての今後の展開が未知数であるが、このような状況であるからこそ、積極的にドイツ留学および日独学術交流についての情報発信を行っていく。

(3) 支部活動について

・支部活動を着実に進める体制を作る。  
・各支部における DAAD 友の会と連携した企画を実施する。

(4) 協会会員について

日本フンボルト協会の会員数を増やすための方策のひとつとして、シーボルト賞をはじめとするドイツの各賞受賞者を賛助会員としての入会を要請するなど、新会員の獲得を図る。

(5) 協会財政安定化について

・留学帰国直後の Humboldtianer にも入会を強く促すと同時に、各賞受賞者の賛助会員としての本協会入会を促進し、会費納入増加につなげる。  
・協会財政安定化のための「日本フンボルト協会寄付口座」を開設する。  
・日独共同研究奨学金の寄付金の中から、財政安定化基金へ200万円の配分がなされ、特別会計基金とする。

(6) 日独共同研究奨学金制度

同奨学金制度による助成を引き続き行っていくが、本年度の奨学金申請は、4件の応募(すべて文系)があり、2件を採択した。

(7) Humboldt-Kolloquium について

2021年11月に東京で開催予定であった、ドイツ・フンボルト財団による Humboldt-Kolloquium は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2022年秋に延期されることになった旨の連絡が同財団からあった。日本フンボルト協会としても、この決定を受けて、2022年度の Humboldt-Kolloquium 開催にむけて、引き続き支援していく。

#### 質疑および関連意見：

\* コロナの影響でドイツ留学は現状どのようになっているのか？

⇒事務局：DAAD では、ドイツにいる留学生は一時帰国している。今年度採択者は日本で待機中。フンボルト財団に現状を確認する。

\* ドイツ留学の見通しが立たない状態で、留学説明会の在り方は？

⇒理事長：ドイツ留学の現状を否定的に捉えるのではなく、例えば、協会 HP を活用するなどして情報を間断なく提供することが重要と考えている。

\* こういう状況・時期だからこそオンライン説明会などでの情報提供は重要。ドイツ側(フンボルト財団)の現状および今後の見通しを踏まえて、留学説明会などでの情報提供は重要。

\* 留学生を招くことについて、そろそろドイツも含めて各国で対応策を検討しているはずであり、そのような情報を提供することも重要。

\* オンラインでの留学説明会は技術的に可能。ただ、ドイツ政府の方針、日本政府の方針が未定であり、状況を見極めて正しい情報を提供するように努めたい。

⇒理事長：フンボルト財団本部に状況を問い合わせる(情報提供を求める)。適宜情報をみなさんに提供する。

\* 協会会員を増やす方策として、準会員のような制度はないか？

⇒理事長：賛助会員の規定があるので、それを活用してほしい。

\* 人文学系の情報提供について：最近 10 年で人文学系の留学生は 3 名程度。従って、現在のドイツの学問の情報も、人文学の先生からは出しにくい。帰国直後の留学生が情報を提供するだけではなく、幅広くいろいろな人、分野からも人文学系の情報を提供する方策が必要。

\* 現在のドイツの研究状況については、記事の寄稿を常々持っており、記事収集のお願いもしている。生命科学医学系は、ドイツの中で、日本人研究者のネットワークができたこともあって、情報、記事が寄稿されるようになった。それ以外の分野はまだそうになっていない。単発ではなくシステムティックに掲載するほうが効果的である。コンスタントに寄稿頂けるシステムづくりも重要。現在ドイツに留学している人、帰国直後の人は言うに及ばず、いろいろ記事を集めたいと思っているが、方策は見つかっていない。

\* フンボルト財団の HP にある記事にリンクを張るのはどうか？

\* 日独共同研究については、フンボルト財団の HP をクリックすると、日本フンボルト協会の HP に飛ぶ。人文学系の情報提供については、その逆ができないか。

\* フンボルト本部の HP の個々の記事ごとにリンクを張るのは容易ではない。

⇒理事長：今後は、協会 HP に文系の研究動向に関する情報を、一層充実させていく。この件については、ホームページ委員長と具体策を検討頂き、次回の常務理事会に提案頂く。

\* 財政安定化基金 200 万円の使用方法について、年度予算に予算化し用途を明確にしてはどうか。

(予算書の収入欄にその金額を入れて執行するのがよいのではないか)？

⇒理事長：基金の支出については、基金規定第 4—6 条に規定されているが、具体的に執行する際には、年度予算案に具体的な項目および金額を計上して執行するようにしたい。

#### 4. 2019 年度の決算報告、会計監査について

・高橋宗五 常務理事(会計担当)より 2019 年度決算(資料 3)および会計監査(資料 5)について報告があり、原案通り承認された。

・決算の中で、特に次年度繰越金が前年度に比べて約 50 万円減少している点が指摘された。

#### 5. 2020 年度の予算案

・高橋宗五 常務理事(会計担当)より 2020 年度予算案(資料 4)に基づき説明がなされ、一部修正の上、承認された。

・以下の質疑を踏まえ、予備費の 20 万円を 10 万円に減額し、その減額分を、総会・説明会等開催として 10 万円を計上する。

#### 質疑：

\* 現状では、明確な予算立ては難しいが、予備費を増額計上するのではなく、例えば、オンライン会議費などを含めた予算を、総会や留学説明会費として計上しておくことが必要ではないか。(総会等の予算が 0 円というのは適切ではないのではないか。)

⇒理事長：HP を使った留学説明会の情報発信などを行う予定であり、それを反映させた予算案に改定する。

⇒財務担当常務理事：そのように修正する。

\* 新型コロナウイルスの影響で支部活動がかなり制約をうけているので、支部助成費は、要求に応じて配分することにしてはどうか。

\* 支部活動が本協会の活動の基礎で支部活動を補助、補償することが基本理念であり、イベントベースで配分するのではないのが設立時の趣旨。但し、支部で、返金を決定するならそれもやぶさかではない。

\* 東北支部：現状、過去のお金を使い切れておらず、残金があるので、それを活用したい。

⇒理事長：設立の理念を踏まえ、原案通り配布する。但し改めて本年度分の支部助成費を各支部から申請する段階で、支部の総意による返金の受け入れや助成金を辞退することも考えられる。

#### 6. 日独共同研究奨学金について

(1) 本年度の奨学金基金、財政安定化基金について、事務局から会計報告(資料 6-1)があり、承認された。

(2) 本年度奨学金選考結果(資料 6-2)について、西川選考委員会委員長から報告があり、本年度の申請は、4 件(すべて文系)あり、選考委員会で厳正・公平に審査の結果、2 件を助成対象候補としたい旨の提案があり、審議の結果、承認された。なお、授賞式などについては、助成対象者の来日の可能性なども含め、場合によっては、Zoom も活用して授賞式を実施したい旨の発言があった。

## 質疑：

- \* 課題は日本語の課題名だけか？ できればドイツ語を併記してほしい。  
⇒事務局：実施要項には、関係書類は、原則、日本語を使用と明記されているが、ご本人に確認し正式な報告書では併記する。  
課題については応募の際にドイツ語または英語でも記載してもらう方向で検討することになった。

## (3) 2021年度実施要綱について(和文、独文)

- \* 伊藤理事長より、(資料6-3)に基づき、前回で常務理事会での承認を受けて、文言を微修正した箇所も含めて2021年度実施要綱の説明があり、原案通り承認された。
- \* コロナの影響もあり応募者が少なかったが、次年度以降、応募者増に努めたい。なお、新型コロナウイルス状況下では、共同研究のあり方なども含め、弾力的に運用したい旨の発言があった。

## 7. 監事の推薦について

- \* 伊藤理事長から、協会監事は2名であるが、現状では吉川泰弘 監事1名であり、協会監事の欠員補充として、芳賀雅顯(はが まさあき) 会員(慶應義塾大学(法学))の推薦があり承認された。
- \* また、監事は常務理事会に出席することができるので、次回から案内を送付することになった。

## 8. 賛助会員の推薦について

- \* 伊藤理事長より、賛助会員の推薦について、(資料7)に基づき説明があり、以下の2名を賛助会員とすることが承認された。  
長谷川修一 先生 (2019年度フンボルト賞受賞者) 推薦者：高橋輝暁会員、伊藤眞会員  
大越 慎一 先生 (2019年度フンボルト賞受賞者) 推薦者：梶 英輔会員、伊藤眞会員

## 9. 支部報告

- \* (資料8)に基づき、各支部長から支部活動について以下の報告があり、了承された。

### 北海道支部 (居城先生)

従来の北大での留学説明会を、今回は室蘭工大で実施。若手の会員も誘い幹事会を実施。6月に留学説明会を予定していたが、コロナの影響で中止。

### 東北支部 (須田先生)

10月に総会を予定していたが、台風のため中止。そのため、昨年度の支出が大幅減となった。東北大学での留学説明会に関連する行事も行ったが、残念ながら低調であった。

### 関東甲信越支部 (井田先生)

- \* 2020年3月14日に2019年度総会、懇親会を予定していたが、コロナの影響で中止。それに伴い、支出減。

- \* 2020年10月24日に留学説明会を予定。HPを今年度中に開設予定。2021年3月に支部総会、講演会を予定。講師は、浦川道太郎先生を引き続き予定。繰越金は10月の説明会に使用予定。

### 中部支部 (和田先生)

- \* 2019年5月10日に総会、談話会、懇親会を実施。

- \* 2020年1月25日、名古屋大学で留学説明会を実施。参加者増加の方策を要検討。

- \* 2020年度も、対面の総会、談話会、懇親会を実施予定。

- \* HPを一新した。

### 関西支部 (西川先生)

- \* 2020年2月23日に総会を実施。懇親会は中止。

- \* 2020年度の留学説明会については、保留。

- \* 2020年度総会(2021年2月)を予定。

- \* 総会時の懇親会が中止のため、支出は減。

### 中四国支部 (坂越先生)

- \* 支出：支部長の旅費。今後はZoom会議の実施に伴い、2020年度は補助を辞退したい。

- \* 地理的に集客、対面のイベントは難しい。局地的なネットワーク的な活動はあるが、全体で活動するのは難しい。2020年度の活動は今後検討する。

## 質疑：

- \* DAAD友の会なども巻き込んでZoomを活用した活動を検討してはどうか。

### 九州支部 (河野先生)

2020年2月7日に2019年度の総会、講演会、懇親会を実施。昨年までは沖縄の会員がおり、その旅費の補助に使っていたが、2019年度は出席者が福岡近郊だったため、支出減。

## 10. 事務局の謝金について

- \* 伊藤理事長より、関さん（事務局）の謝金について、ご本人の申し出を踏まえ、これまでの実働時間による謝金ではなく、時給 1500 円、10 万円/月の定額制としたい旨の提案があり、承認された。
- \* テレワークを実施し、時間管理はしっかり行いたい。

## 11. 来年度の総会の予定

- \* 伊藤理事長より、今後のコロナの状況も踏まえながら、今後検討する。できる限り通常通り開催したい旨の発言があった。

## 12. その他

### (1) Humboldt-Kolloquium について

- \* 2021 年度開始予定の上記コロキウムが 2022 年度に延期になり、本協会もそれに合わせて引き続き支援して行くことが確認された。

### (2) 今後の会議開催について

- \* 常務理事会などは、原則、事務局をホストとする Zoom 会議を活用していくことが確認された。
- \* 本年度の総会決議の扱いについては、以下の手続きによることになった。

- 1) 全会員に従来通り総会案内（協会 HP 上に総会審議事項を掲載している旨）を送付する。
- 2) 総会案内には、HP を見て期限付きで賛否の意見を入れてもらうような案内文も入れる。
- 3) 日本フンボルト協会として行うべき前向きな情報発信の企画もあることも併せて通知する。

## 関連意見

- \* 新型コロナウイルスという社会に非常に大きい影響のあることに直面している。一方でフンボルト協会には多様な分野のエキスパートが集まっている。総会の賛否を問う際に、一般的な賛否の問いかけに留まらず、エキスパートの集合体としての前向きな企画や意見交換のプラットフォーム案などを入れて発信できるとよい。
  - \* 2020 年度総会後に予定されていた澤 芳樹教授（大阪大学医学部心臓外科）の講演については、Zoom を使った配信（関西だけでなく全フンボルト協会会員対象）などを検討している。
  - \* 新型コロナウイルスのテーマは講演会の企画テーマとしては、タイムリーである。単に医学の問題だけではなく、政治、人文科学の問題ともかんげいするので、協会主催の企画（オンラインのシンポジウムなど）を開催するのは良いと思う。
- ⇒理事長：2020 年度予算の総会費用の 10 万円で、タイムリーな企画についても、積極的に検討・実施したい。

### (3) 参加理事の方から

- \* 大学の中でも今こそなすべき企画の話は出ているので、フンボルトの中でもそういうことがあるとよい。
- \* 実施要綱のドイツ語は再考が必要かと思われる箇所が散見される。  
⇒これについては別途メールでご連絡頂く。

次回の常務理事会：

2020年8月29日（土）14：00から17：00（Zoom 会議）

（以上）